

# すすめよう！男女共同参画

問合せ先

役場企画課企画調整係(内線213)

## ◆異質平等論

「男と女は違うけれど平等だ」あるいは「男女は違った役割を担っていても対等である」という考え方を異質平等論といいます。「違うけど『平等だ』」というのですから良さそうですが、異質平等論は「女性だから〇〇」「男性だから〇〇」という性別役割分業を社会に固定する可能性があります。

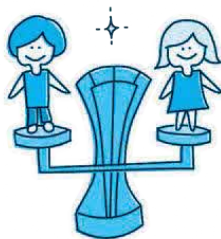
例えば、ある夫婦がそれぞれの適性や能力、やりたいことを話し合い、納得した上で夫が外で働き、妻が家事を行い夫婦が異なる役割を担うことで、支え合いながら仲睦まじく対等な関係を築くことはあります。しかし、個々の夫婦にとっての望ましい夫婦の役割分担を「男は仕事、女は家庭」として社会全体に当てはめてしまうと、女性の社会参加を妨げ、男性だけが社会を動かす不平等な社会になってしまいます。

## ◆性差と個人差

女性は手先が器用で細かいことに気が付くから

家事や育児に適していて、男性は腕力があるから力仕事に向くと考えがちですが、細やかで繊細な作業が得意な男性もいれば、男性より力仕事が得意な女性もいます。細やかさや繊細さ、腕力の違いなどを性差ではなく、個人差として捉えることが男女平等を実現する上で重要です。

男女平等とは、生物学的な性に縛られずに、その個性と能力を十分に発揮できることです。それは女性の家事や子育てを否定するものではなく、女性だからと家事や子育てを強いられてはいけないということであり、男性を「男なんだから、がむしゃらに働いて家族を養う」という役割で縛ってはいけないということです。



5

ジェンダー平等を  
実現しよう



▲SDGsゴール5  
アイコン